

第30期放射線安全取扱部会 支部長，委員長ご挨拶

北海道支部長に就任して

久下 裕司

第29期に引き続き，第30期の北海道支部長を拝命いたしました北海道大学の久下です。

北海道支部では，安原優子氏（北海道大学）の任期満了にともない，新たに久保直樹氏（北海道大学）を委員に迎えました。一方，大内健司氏（北海道電力(株)），遠藤大二氏（酪農学園大学），吉井勇治氏（札幌医科大学）には，継続して委員に就任していただき，私を加えた合計5名で第30期の北海道支部を運営してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

第29期は，私にとって支部長就任直後の不慣れな2年間でしたが，各委員，会員の皆様方のご支援の下，教育訓練や放射線利用施設等の見学会・研修会等，これまでの諸先輩方が行ってこられた支部活動を継続して実施することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

今期，第30期は，これまでの教育訓練や放射線利用施設等の見学会・研修会を継続して開催すると共

に，「法令改正に伴う各放射線施設の対応等」に関する研修会にも力を入れていきたいと思っています。具体的には「放射線障害の防止に関する法令改正の説明会（原子力規制庁）」への協力や「北海道地区放射線施設協議会・研究会の共催」等を予定しています。これらの支部活動が会員の皆様の放射線関連業務・研究等の一助になれば幸いです。また魅力ある北海道支部を実現するため，新しい試みにも積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

皆様には，これまでにも増したご指導とご支援を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

（北海道大学アイソトープ総合センター）

東北支部長に就任して

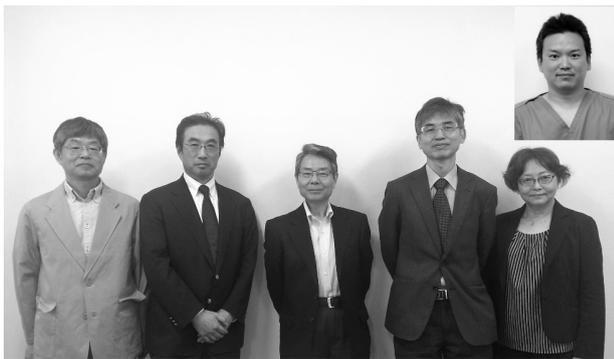
渡部 浩司

第28期，第29期に引き続き，第30期もお世話になります東北大学の渡部です。どうぞよろしくお願いいたします。他の委員は，再選の宍戸文男氏（東北放射線科学センター），阿部養悦氏（東北大学病院），福島美智子氏（石巻専修大学）に加えて，鈴木俊幸氏（福島県立医科大学），浅沼研氏（秋田大学）の2名を新たに迎え，計6名で運営してまいります。

今年は10月25日，26日の2日間，年次大会を仙台市にて執り行います。東北支部長として十分な活動ができないまま，あっという間に3期目を迎えることになりましたが，本年次大会は東北支部でのこれまでの活動を総括し，未来に繋げる会を目指して準備を進めております。平成最後の年次大会という節目の大会です。東北地方は巨視的に見れば，「平成」の文字のごとく，のんびりとした牧歌的な地域



写真（左より）久保，大内，久下，遠藤，吉井各委員



写真（左より）鈴木，阿部，宍戸，渡部，福島，
（右上）浅沼委員

ですが、微視的に見れば、その厳しい自然環境の中、あらゆる変化を許容する、非常に変化に富んだ地域でもあります。そのような東北のダイナミズムを感じていただける会にしたいと思います。

東北支部の活動として、今年度は福島第一原子力発電所廃炉現状視察を年次大会の前日、10月24日に予定しております。詳細は、改めて、協会ホームページ等でお知らせいたしますが、原発事故から7年が経過し、放射線レベルは大幅に下がったとはいえ、発電所周辺は立ち入りが制限されており、自由に出入りできるエリアではありません。たいへん貴重な機会ですので、ぜひ参加していただければと思います（定員制です）。

（東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター）

関東支部長に就任して

井上 浩義

関東支部長を拝命いたしました慶應義塾大学の井上浩義です。今回が最終期（3期目）となり、これまでの関東支部の活動を総括し、発展させねばならないと考えております。本支部は全体会員の約半数を有しますが、決して、それに見合った活動に量・質共になっておりません。今期には従前の活動はしっかりと根付かせ、そして、時代に即した新規活動を立ち上げていきたいと思っております。

具体的には、今期は定常業務である放射線業務従



写真（前列左より）泉，佐々木，井上，八木
（後列左より）小池，小野，谷川，梶井，福原各委員
（右上左より）田辺，桧垣，溝口各委員

事者のための教育訓練講習会の開催や第1種放射線取扱主任者試験解答例作成等をより充実させます。また、今期には改正法が完全施行されます。これに伴って少なからず混乱が生じている会員もいらっしゃると思います。関東支部では部会と会員、あるいは会員と会員を結びつけることで改正法の解釈と実務情報について会員の皆様に広報することに努めます。また、現在は市民向放射線教育等について個別に実施しておられる会員の皆様に支援する体制を作りたいと思っております。そのための組織作りを今期実施致します。

関東支部は、参加して良かったと思われるような支部活動を遂行していきます！

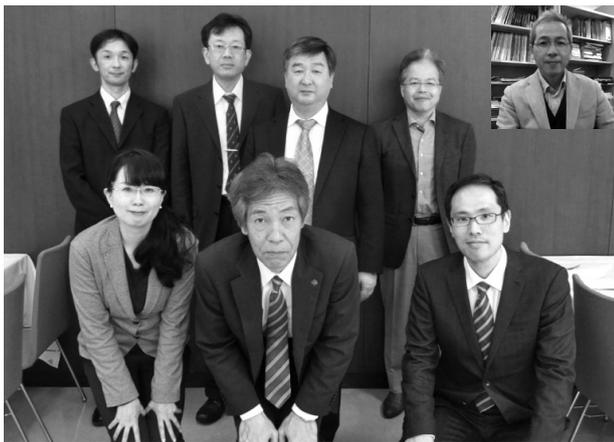
なお、協会ホームページで既報のように本支部の支部委員は5名が交代しました。今期委員：泉 雅子（(国研)理化学研究所）、小野孝二（東京医療保健大学）、梶井重男（武田薬品工業(株)）、小池裕也（明治大学）、佐々木博之（富士電機(株)）、田辺恵美子（日本大学）、谷川勝至（東京大学）、桧垣正吾（東京大学）、福原幸規（東京女子医科大学）、溝口真樹((株)日立製作所)、八木直樹(新日鐵住金(株))。(五十音順；敬称略)。

（慶應義塾大学医学部化学教室）

中部支部長に就任して

矢永 誠人

このたび、第29期に引き続き中部支部長を仰せ



写真（前列左より）三輪，田中，小関（後列左より）森，小島，矢永，伊藤各委員（右上）加藤委員

つかりました静岡大学の矢永誠人です。よろしくお願いいたします。

今期は、第29期から継続して就任していただいた伊藤由磨氏（名古屋市総合リハビリテーションセンター）、小島康明氏（名古屋大学）、三輪美代子氏（岐阜大学）、森哲也氏（福井大学）の4先生、新たに就任された加藤信哉氏（三重大学）、小関弘智氏（愛知医科大学病院）、田中正行氏（(株)千代田テクノルの3先生、そして私の合計8名で運営してまいります。

中部支部の定例の活動は、春の教育訓練講習会と秋の支部研修会又は施設見学会、そして放射線取扱主任者試験の解答例の作成です。放射線取扱主任者試験の解説につきましては、受験者にとって分かりやすいものとなるように、委員の間で活発な議論を行いつつ作成してきました。今後も同じ姿勢で取り組んでいく所存です。また、昨年度は、放射線障害防止法の改正についての原子力規制庁による説明会への対応も行わせていただきました。

今回の法改正の内容は多岐にわたっておりますが、特に放射線障害予防規程に関して、それに定めるべき事項に関するガイドが示され、記載すべき事項や放射線障害防止に関して必要な措置が組織的に行われるように見直しをすることが求められております。この『組織的に』という点、お悩みの事業所が多いのではないかと思います。そこで、今期の活動といたしまして、今回の法改正に対して各事業所で行うべき具体的な内容を中心とした研修会を開催したいと考えております。そのためには、皆様のご

協力は欠かすことができません。部会員の皆様におかれましては、今後とも中部支部の活動にご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（静岡大学理学部放射科学教育研究推進センター）

近畿支部長に就任して

角山 雄一

このたび矢鋪祐司前支部長（日本たばこ産業(株)）の後任として、第30期の近畿支部長を拝命いたしました京都大学の角山と申します。

これまでの支部長の皆様と比べますと、知識も経験も見劣りする感がございますが、至らないところにつきましては優秀な他の委員の皆様のご協力を仰ぎつつ支部活動に邁進する所存でございます。

まずは今期委員をご紹介します。前期に引き続き、小山由起子氏（滋賀医科大学）、吉岡潤子氏（大阪大学）、芳原新也氏（近畿大学）、萱野信二氏（(株)千代田テクノル）、古屋敷守氏（仁泉会MIクリニック）、竹村貴志氏（ポニー工業(株)）が、これまでのご経験をもとに本支部委員会を支えてくださいます。更に今期より、佐々木将博氏（神戸市立医療センター中央市民病院）、中屋敷勇輔氏（(株)日本環境調査研究所）、成末泰岳氏（(株)コーガアイソトープ）が新たにメンバーに加わっていただきました。どなたも本務先等で既に十分なお経験を積まれている皆様ばかりです。



写真（前列左より）芳原，佐々木，角山，小山（後列左より）竹村，成末，吉岡，萱野，古屋敷，中屋敷各委員

関東支部に次ぐ人員で構成されているだけあって、過去近畿支部は「放射線のABC」の編集や各種セミナーの開催等、様々な活動を積極的に展開して参りました。諸先輩方のこれまでのご尽力、またその成果や人脈、文化等を可能なかぎり継承するとともに、新たな人材発掘やその育成にも挑戦したいと考えております。

具体的な活動内容といたしましては、放射線業務従事者のための教育訓練講習会、放射線取扱主任者試験の解答例作成、部会員のための見学会・研修会の実施、主任者定期講習会への協力を予定しております。そのほか、分科会、他団体等との連携企画等も計画中です。従来の関西らしい（パワフルな？）支部活動を更に盛り上げて参りますので、皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

（京都大学環境安全保健機構
放射性同位元素総合センター）

中国・四国支部長に就任して

花房 直志

この度、小野俊朗前支部長の後を受けて、第30期の中国・四国支部長を務めさせていただくことになりました岡山大学の花房直志と申します。よろしくお願いたします。私は岡山大学アイソトープ総合センター（現自然生命科学研究支援センター）の発足当初から放射線安全管理の実務に関わっておりましたので、若手の多い中国・四国支部では古参の部類に入ります。支部の活動は事務局を担当したことしかありませんでしたが、そのような経緯で支部長に任ぜられたと認識しています。

第30期は再任の稲田晋宣氏（広島大学）、前田志津子氏（広島国際大学）、都留忍氏（高知大学）に加え、任期満了となった三好弘一氏（徳島大学）、北実氏（鳥取大学）の後任として西本一幸氏（香川大学）と坂口修一氏（山口大学）を新委員として迎え、計6名の体制で活動してまいります。中国・四国支部は広域にわたるため頻りに顔を合わせて会合を持つわけにはいきませんが、伝統的にまとまりの良い支部ですので、若い支部委員を中心に活動を



写真（後列左より）坂口、都留、稲田（前列左より）西本、花房、前田各委員

より活性化させていきたいと思ひます。

中国・四国支部の定例の活動は、春の教育訓練講習会と秋の支部研修会、及び放射線取扱主任者試験の解答例の作成です。これらの定例の活動を着実に実施することから始めていきたいと思ひます。本年度は早速、「法令改正へ向けた現場対応」をテーマとして秋の支部研修会を計画しています。

また、平成31年度の年次大会は中国・四国支部で行う予定となっています。こちらにつきましては、まだ準備もこれからですが、全国から集まっていた方々をおもてなしできるように、支部委員共々丸となって準備を進めていく所存です。就任早々で難しい点もありますが、年次大会の準備は支部のネットワークを活性化させる良い機会でもあると考えています。部会員の皆様におかれましても、ご支援ご協力を何とぞ宜しくお願い申し上げます。

（岡山大学中性子医療研究センター）

九州支部長に就任して

島崎 達也

このたび、杉原真司前支部長（九州大学）の後を受けて、第30期九州支部長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いたします。

今期の九州支部は、第29期からの継いで奥野浩二氏（長崎大学病院、2期目）、後藤稔男氏（宮崎大学、3期目）、川村秀久氏（(一財)九州環境管理協会、3

(1段目)北川、阿部、
(2段目)川村、
(3段目)奥野、島崎、
(4段目)後藤 各委員



期目)の諸先生方に加え、新たに阿部利明氏(産業医科大学)、北川修嗣氏((株)千代田テクノ)の先生方とデモドリの島崎の3名が新たに加わり、ベテランの先生方とフレッシュな先生方との絶妙な組み合わせでスタートいたしております。今年度の支部活動は、既に春の教育訓練講習会から始まっております。今年度も4月17日に開催し、受講者数は新規教育19名、再教育40名でした。アンケートより受講者の職種が民間企業、病院関係者が多かったことと、ご要望を参考に休日開催を支部委員会で検討し、次年度は4月前半の土曜日開催を予定しています。今後の支部活動は、6月の原子力規制庁による「放射線障害の防止に関する法令改正の説明会」への協力、11月下旬の福岡市での支部研修会の開催準備を進めています。また、定例の支部活動に加えて、放射線取扱主任者試験の解答例作成や事業所への教育訓練講師の派遣を企画することです。

九州支部では、前支部長のもと九州・沖縄における放射線安全管理情報のデータベースや情報公開等、放射線施設だけでなく地域の安全・安心に寄与する活動を展開する目的で「次世代主任者育成プロジェクト」を推進しており、第30期支部活動でも継続しています。これらの活動のためには、少数精鋭の九州支部会員の皆様のご協力は欠かすことはできません。部会員の皆様におかれましては、今後ともご支援をいただきますよう重ねてお願いいたしますとともに、秋の支部研修会でお会いできることを楽しみにしております。

(熊本大学生命資源研究・支援センター)

企画専門委員会をよろしく申し上げます

松田 尚樹

4年ぶりに企画専門委員会に戻ってまいりますと、前委員長の中島先生(広島大学)のもと、各委員の先生方がのびのびと企画案を出されて、それがいくつも具体的になりつつあることに感銘しました。既に行き上がっていた放射線施設・設備に関する知識の伝承に関する企画は、今年Isotope Newsと年次大会の場をお借りして展開します。その年次大会では、教育訓練、予防規程のプラクティス紹介を始めますが、正念場は来年かと思えます。それに合わせる形で、新たな教育訓練分科会活動も後押しします。

委員構成は北から順に小崎 完氏(北海道大学)、齋藤美希氏(弘前大学)、久富木志郎氏(首都大学東京)、和田真由美氏(福井大学)、垣下典永氏(京都大学)、中西 徹氏(就実大学)、北 実氏(鳥取大学)、馬田敏幸氏(産業医科大学)、に松田の9名です。全員が放射線管理の現場に関わっていることが大きな強みです。新しい活動の企画にあたっては、現場でこんなことがあればいいな、できればいいな、的な発想のもとに、中島先生が進められた部会活動の触媒的な役割を果たすことを念頭に置いて進めたいと考えています。

どんな仕事にせよ、仕事仲間は良いものです。ベテランから若手まで、大きな職場から小さな職場まで、上司に恵まれた主任者、上司に恵まれない主任者、自分が上司で部下からどう思われているかわからない主任者、そして日本津々浦々、みんな仕事仲間です。仕事仲間が気軽に立ち寄って好きなことと言える居酒屋のようなバーチャル空間でありたいと思っています。これから2年間、企画専門委員会をどうぞよろしく申し上げます。

(長崎大学原爆後障害医療研究所)

広報専門委員会委員長を拝命して～広報再考～

池本 祐志

前期に引き続き広報専門委員会委員長を拝命いたしました。前期は、Isotope News 誌の体裁が一新されて隔月刊になるという大きな変化があり、また、事務局も一新され、手探りでの編集作業となりました。実務的な作業が主となる広報専門委員会にとっては、激動の第29期でした。そのような中で、大きな穴を開けることなく乗り切れたのは、委員の先生方、事務局をはじめとする関係者のみならず、原稿の執筆をいただいた皆様のご協力のお陰とっております。

今期はもう少し前を向いて活動できればと思っております。部会の中での広報専門委員会のあり方を再考してみました。一般に、広報には、発信者による宣伝や情報伝達という、一方向的な伝達手段というイメージがあるかと思います。しかし、元をたどれば、広報はPR (Public Relations) のことであり、本来、双方向あるいは多方向のコミュニケーションプロセスを意味するとされています。このことを踏まえ、これまで以上にインタラクティブな広報活動を通して、情報伝達ツールとして機能するだけでなく、部会員の活動の場としての機能を充実する等、色々な形で皆様の活動の支援ができればと考えております。

また、これまでの広報専門委員会の活動は、部会員相互の情報共有という色彩が強かったのですが、今期はより対象を広げて外部とのコミュニケーションを意識したいと思います。それにより、社会における放射線に関する知識や関心へのニーズに適切に応えることができ、放射線取扱主任者の社会的認知を高め、ひいては部会員増に繋がることも期待されます。現状維持ではなく、何かを変えようという意欲的な委員会でありたいと思っております。

広報専門委員会、最高！と言ってもらえるよう尽力いたします。引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

広報専門委員会の構成は以下の通りです(敬称略)。
【任期満了】大石晃嗣 ((株)日本環境調査研究所)、宮本昌明 (神戸大学)、吉田浩子 (東北大学)

【委員 (*は新任)】

安中博之 (富士電機(株))、片岡隆浩 (岡山大学)、

*柴田理尋 (名古屋大学)、廣田昌大 (信州大学)、
*福島芳子 (東京医療保健大学)、藤淵俊王 (九州大学)

(日本農薬(株)市場開発本部)

法令検討専門委員長を拝命して

江田 正明

第29期まで2期務めていただいた榎本前委員長(高エネルギー加速器研究機構)の後任として、この度法令検討専門委員会委員長を引き継ぐこととなりました。今年、来年と法令改正対応の真っ只中というこの大事な時期に、榎本先生はじめ歴代の委員長と同じように委員会をまとめて部会員の期待に応えて行けるのか、その重圧に不安と躊躇は隠せませんが、委員の皆さんが経験も豊かなエキスパート揃いで信頼できる方ばかりという強力なバックアップ態勢もあり、これに乗じてお受けさせていただきました。鋭意務めさせていただき所存でございます。よろしくお願いいたします。

さて、今期の法令検討専門委員会の大きなミッションは法令改正への対応です。特に予防規程の変更は全事業所来年8月30日までに実施して国へ届け出る必要があり時間も限られています。国から予防規程のガイドが発出されましたが、そこにある要求事項が果たしてどういうことを指しているのか主任者個人の裁量だけでは悩むこともあるかと思えます。そこで今期の委員会では、前号の部会長挨拶にもありましたように予防規程ガイドの解説の作成を計画しました。部会員の皆様が予防規程を変更する際に参考にしていただけるよう、一部は条文例も挟みながら分かりやすいものにしようと考えております。また、合わせて協会ホームページのQ&Aの充実についても引き続き検討していく予定です。

今回の法令改正では、予防規程以外にも事故等による法令報告に関する解釈や事業者の一義的責任についても明確化されました。それらに応じてこれからの主任者は存在感が増す反面、今まで以上に説明責任を求められたり法令上の判断をより主体的に考えなくてはならない機会が出てくるかもしれませ

ん。そういう時にも部会員の皆様のネットワークのひとつとしてお役に立てることができればと考えています。

【第30期委員】

加藤真介（横浜薬科大学），田中鐘信（（国研）理化

学研究所：新委員），反保浩一（第一三共（株）），仁神鉄人（横河電機（株）），山田克典（（国研）日本原子力研究開発機構）

（ゼリア新薬工業（株）中央研究所）